

<開発学関連書籍>

今月の
売上ベスト5

提供:三省堂書店 名古屋高島屋
TEL:052-566-8877
12/1~12/31



誰かのためなら人はがんばれる
国際自立支援の現場でみつけた生き方

木山 啓子 著/かんき出版/1,470円(税込)

第2位

ソーシャル・ビジネス革命 世界の課題を解決する新たな経済システム

岡田 昌治 監修/千葉 敏生 訳/早川書房/1,995円(税込)

第3位

世界を救う7人の日本人 国際貢献の教科書

池上彰 編・著/日経BP社/1,470円(税込)

第4位

国際協力ガイド2012 変わる世界地図とニッポンの役割

国際開発ジャーナル社 編/丸善・国際開発ジャーナル社/1,260円(税込)

第5位

ブルー・セーター 引き裂かれた世界をつなぐ起業家たちの物語

ジャクリーヌ・ノヴォグラッツ 著/北村 陽子 訳/英治出版/2,310円(税込)

第3位

Pick Up!

『世界を救う7人の日本人』



池上彰さんが国際協力を解説

近年、テレビや新聞でも取り上げられることが多くなっている。アジアやアフリカなど途上国の経済発展。その土台にあるのが先進国による国際協力活動だ。日本からもJICAをはじめ公的機関やNGOが現場に赴き、水、医療、食料、教育、平和、経済などの分野でのインフラづくりに毎日奮闘している。本書は、ジャーナリストの池上彰さんが、国際協力のプロフェッショナルたちにインタビューし、その意義について解説する。国際協力について知りたい人、現場に出たい人にとって、最高のテキストだ。

[国際協力事業の分野などで注目される報告書を取り上げます]

報告書を読む



エチオピアの人権侵害の事態を報告

"Development without Freedom: How Aid Underwrites Repression in Ethiopia"

Human Rights Watch

飢餓や貧困、干ばつなどさまざまな問題を抱え、世界最大の開発援助受領国であるエチオピア。世界銀行などの国際機関や先進国政府は、医療や教育、農業、水、貧困削減など基本的公共サービスの提供を目的とした支援を行っており、2008年の同国援助受領額は30億ドル以上に及ぶ。

本報告書は、そうした海外からの援助が、与党エチオピア人民革命民主戦線(EPRDF)の組織強化に利用され、野党支持者抑圧の道具にされている実態を調べ、まとめたもの。政府の規制のため、独立した調査が難しい中、ヒューマン・ライツ・ウォッチは、2009年に6カ月間の調査を実施。3地方53村で、200人以上の人々から聞き取り調査を行い、多くの地域で証言者が差別体験を訴え、問題は広域に及ぶことが明らかになった。

報告書によれば、国際機関などから直接援助を受けているエチオピアの地方自治体は、野党支持者や社会活動家をはじめ、食糧援助がなければ生死を左右されてしまうような農村の人々に対する支援も拒否している。特に、2010

年5月に実施された国政選挙で、与党は99.6%の議席を獲得したが、一方、与党を支持しなかった農民たちは、農業支援や少額融資を受けられず、種・肥料などを提供してもらえなかったと訴えている。また、多くの野党支持者とその家族は、世界食糧計画(WFP)などが人々の自立を支援するために実施している「フード・フォー・ワーク」や「セーフティ・ネット」プログラムへの加入を拒まれたという。地方自治体当局からこれらのサービス提供を拒まれた野党支持者は、エチオピア国内全域に広がっており、こうした対応に与党や政府に異議を申し立てても、「自分の党に助けてもらえ」と言われるだけだった、と証言している。

報告書をまとめたヒューマン・ライツ・ウォッチのアフリカ局長ロナ・ペリガル氏は、「エチオピア政府は援助へのアクセスを、国民支配と反体制派遣の武器として日常的に使っている。与党の言いなりにならなければ、海外援助の裨益から締め出されるのが現状」と指摘。海外からの援助が政治弾圧を助長しないように訴える。